

巡回バス見直し（運行経路、運行時間、停留所、運賃）の方向性

【課題】

①何に焦点を当てるかで手厚くするルートが異なる。

例) 従来は、西地区の児童の登下校に焦点を当てていたので、昼以降も西地区コースに充當していた。

②長南駐車場への接続時間帯

例) 長南駐車場 8：10（羽田空港・横浜駅→茂原駅）のバスに接続させ笠森霊園に送つても、需要がない。

③客を送った場合、帰りの足を確保する必要がある。

例) ユートピア笠森まで巡回バスで行った人の帰り

④系統長が長くなると、運転手の負担や運行委託費の負担が増える。

【方向性】

①朝と夕方は、町民の生活のために使う。

例) 朝は、各地区から中央医院へ来る足や西地区の中学生の通学に焦点をあてる。

②コースの順番を変える。

例) 西地区コース→長南・蔵持コースとなっているが、西地区コースのあと、大人の利用が多い東地区コースへ行くなど。

③不要な系統のカット

例) 利用実態を加味したなかで、需要がない経路はカット。

④従来のコースに捉われない。

例) コースの統廃合、例 豊栄・坂本地区コース、長南蔵持地区コースの統廃合

⑤路線バスの休廃止をカバーする。

例) 茂33系統（長南営業所～給田～茂原駅）の廃止や茂35系統（長南営業所～上永吉～茂原駅）の休止代替え

⑥巡回バスの台数はあくまで1台

例) 台数に限り（1台）があるので、すべてを満たそうとすると運行時刻がタイトになる。

方向性を加味した上で

①観光利用の促進

例) 長南駐車場へ接続させ野見金公園や笠森霊園へ送る。

②茂原駅方面系統への接続

例) 上永吉停留所（茂41系統）への接続